

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 株式会社千雅

研修事業の名称 千雅学園 介護職員初任者研修

1 職務の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆介護という職業について、介護保険制度化の居宅サービスおよび施設サービスの内容を中心に、その他の介護保険外サービス（福祉・医療サービス等）について概説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の概念 ・介護保険サービス ・介護保険外サービス <p>【演習】</p> <p>介護サービスにはどのような種類のものがあるか、グループになって討議、情報交換。</p> <p>介護サービスの内容および介護サービス提供現場を理解する。</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ ・ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 <p>【演習】</p> <p>具体的な介護サービスとそこで働く介護職員を紹介している DVD 教材を視聴。</p> <p>お互いの介護体験を披露し合い、互いの「介護観」に対する理解を深める。</p>
合計	6 時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	6 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳と言う概念に対する気づきを促す。</p> <p>◆虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。</p> <p>*人権と尊厳の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人として尊重 アドボカシー エンパワメントの視点 役割の実感 尊厳ある暮らし

		<p>利用者のプライバシー保護</p> <p>* I C F</p> <p>介護分野における I C F</p> <p>* Q O L</p> <p>Q O L の考え方</p> <p>生活の質</p> <p>* ノーマライゼーション</p> <p>ノーマライゼーションの考え方</p> <p>* 虐待防止・身体拘束禁止</p> <p>身体拘束禁止</p> <p>高齢者虐待防止法</p> <p>高齢者の養護者支援</p> <p>* 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>個人情報保護法</p> <p>成年後見制度</p> <p>日常生活自立支援事業</p> <p>【演習】</p> <p>介護サービス利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由についてグループで討議。グループからの発表を受けて、尊厳という概念に対する気づきを促すよう、講師が整理し助言する。</p>
②自立に向けた介護	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。</p> <p>◆具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。</p> <p>* 自立支援</p> <p>自立・自律支援</p> <p>残存能力の活用</p> <p>動機と欲求</p> <p>意欲を高める支援</p> <p>個別性／個別ケア</p> <p>重度化防止</p> <p>* 介護予防</p> <p>介護予防の考え方</p> <p>【演習内容】</p> <p>検討事例を示し、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアについて、各自で検討しワークシートを作成。講師が講評する。</p>
合計	9 時間	

3 介護の基本（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆介護環境の特徴の理解 ここまでの学習を振り返り、改めて「介護とは何か」について「介護環境の特徴と理解」の観点から訪問介護サービスと施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性を現場の状況を交えて説明する。 訪問介護と施設介護サービスの違い 地域包括ケアの方向性</p> <p>◆介護の専門性 生活を支援するにあたっての「専門性」について、重度化防止、遅延化の考え方や自立した生活を支えるための援護、根拠のある介護が理解できるよう、現場での実践例を交えて解説する。 重度化防止・遅延化の視点 利用者主体の支援姿勢 自立した生活を支えるための援助 根拠のある介護 チームケアの重要性 事業所内のチーム 多職種から成るチーム</p> <p>◆介護にかかわる職種 介護サービスの利用者には、介護職以外にも様々な職種が関わっていることを伝え、主な職種についての理解や、チームケアの重要性やそれぞれの役割が理解できるよう紹介するとともに、現場でどのように連携しているかを説明する。 異なる専門性を持つ多職種の理解介護支援専門員 サービス提供責任者 看護師等とチームとなり利用者を支える意味 互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 チームケアにおける役割分担</p> <p>【演習】 「家族による介護と専門職による介護の違い」について、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し総括する。専門性を伴った介護サービスの提供と学習の大切さを喚起する。</p>
②介護職の職業倫理	1.5 時間	<p>【講義内容】</p> <p>*職業倫理 専門職の倫理の意義 介護の倫理 介護職としての社会的責任 プライバシー保護・尊重</p>

		【演習】 事例を通し、実際に介護を行う場合に必要な倫理的判断の視点をグループで討議する。グループからの発表を受けて、講師が整理し総括する。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	【講義内容】 生活支援の場で遭遇する典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを説明する。 *介護における安全の確保 事故に結びつく要因を探り対応していく技術 リスクとハザード *事故予防、安全対策 リスクマネジメント 分析の手法と視点 事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等） 情報の共有 *感染対策 感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） 「感染」に対する正しい知識 【演習】 事故はなぜおこるのか、事故を未然に防ぐための方法を考え、危険予知、危険予測についてグループで討議し、講師が整理し総括する。
④介護職の安全	1.5 時間	【講義内容】 介護職の心身の健康管理について、日頃の取り組みについて概説する。 *介護職の心身の健康管理 介護職の健康管理が介護の質に影響 ストレスマネジメント 腰痛の予防に関する知識 手洗い・うがいの励行 手洗いの基本 感染症対策 【演習】 講師の実演に基づき、手洗い、うがいの方法を全員でシュミレーションする。
合計	6 時間	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	【講義内容】 ◆介護保険制度・障害福祉制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 *介護保険制度創設の背景および目的、動向 ケアマネジメント

		<p>予防重視型システムへの転換 地域包括支援センターの設置 地域包括ケアシステムの推進</p> <p>＊仕組みの基礎的理解 保険制度としての基本的仕組み 介護給付と種類 予防給付 要介護認定の手順</p> <p>＊制度を支える財源、組織・団体と役割について 財政負担 指定介護サービス事業者の指定</p> <p>【演習】 制度に関わる基本的な用語について、練習問題を解き、知識の確認をする。</p>
②医療との連携とリハビリテーション	4 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害福祉制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</p> <p>医療行為と介護 訪問看護 施設における看護と介護の役割・連携 リハビリテーションの理念</p> <p>・残存機能の回復</p> <p>【演習】 医行為であるか問われる具体例を示し、グループで討議し、講師はその判断基準を示す。 リハビリテーションの内容についてグループで討議する。</p>
③障害福祉制度およびその他制度	2 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆障害福祉制度およびその他の制度を概説する。</p> <p>＊障害福祉制度の理念 障害の概念 I C F</p> <p>＊障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>＊個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護法 成年後見人制度 日常生活自立支援事業</p>
合計	9 時間	
5 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコ</p>

	<p>コミュニケーションとその理由について考え、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。</p> <p>＊介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 傾聴 共感の応答</p> <p>＊コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション 言語的コミュニケーションの特徴、 非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>＊利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者の思いを把握する 意欲低下の要因を考える 利用者の感情に共感する 家族の心理的理解 家族へのいたわりと励まし 信頼関係の形成 自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>＊利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 失語症に応じたコミュニケーション技術 構音障害に応じたコミュニケーション技術 認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>【演習】 コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する。介護におけるコミュニケーション技術の必要性について理解を深める。</p>
--	--

②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆介護におけるチームのコミュニケーションについてその重要性を説明する。</p> <p>*記録における情報の共有化</p> <p>介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</p> <p>介護に関する記録の種類</p> <p>個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）</p> <p>ヒヤリハット報告書</p> <p>5 W 1 H</p> <p>*報告</p> <p>報告の留意点</p> <p>連絡の留意点</p> <p>相談の留意点</p> <p>*コミュニケーションを促す環境</p> <p>会議</p> <p>情報共有の場</p> <p>役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）</p> <p>ケアカンファレンスの重要性</p> <p>【演習】</p> <p>実際に介護記録を記入し、介護記録における情報の共有化の大切さを学ぶ。講師が助言、総括する。</p>
合計	6 時間	

6 老化の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆老化に伴うこころとからだの変化と日常について説明する。</p> <p>*老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <p>防衛反応（反射）の変化</p> <p>喪失体験</p> <p>*老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>身体的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>咀嚼機能の低下</p> <p>筋、骨、関節の変化</p> <p>体温維持機能の変化</p> <p>精神的機能の変化と日常への影響</p> <p>【演習】</p> <p>加齢・老化に伴う心身の変化について、グループで整理する。グループからの発表を受けて講師が補足し総括。</p>

②高齢者と健康	3 時間	【講義内容】 ◆高齢者の疾病と生活上の留意点を説明する。 骨折 筋力の低下と動き 姿勢の変化 関節痛 ◆高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点を説明する。 循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患） 循環器障害の危険因子と対策 老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症） 誤嚥性肺炎 病状の小さな変化に気づく視点 高齢者は感染症にかかりやすい 【演習】 体温計測・電子血圧計を用いた血圧測定・脈拍の計測
合計	6 時間	
7 認知症の理解（6 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1 時間	【講義内容】 ◆認知症ケアの理念を説明する。 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点（できることに着目する）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	【講義内容】 ◆認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について説明する。 ・認知症の定義 ・もの忘れとの違い ・せん妄の症状 ・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ・治療 ・薬物療法 ・認知症に使用される薬
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	【講義内容】 ◆中核症状と周辺症状について理解し、認知症の高齢者とのコミュニケーションや基本的なケアについて説明する。 認知症の高齢者と向き合うための、基本的な姿勢を説明する。 ＊認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の中核症状 認知症の行動・心理症状（B P S D） 不適切なケア

		<p>生活環境で改善</p> <p>＊認知症の利用者への対応</p> <p>本人の気持ちを推察する</p> <p>プライドを傷つけない</p> <p>相手の世界に合わせる</p> <p>失敗しないような状況をつくる</p> <p>すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること</p> <p>身体を通したコミュニケーション</p> <p>相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する</p> <p>認知症の進行に合わせたケア</p> <p>【演習】</p> <p>事例をもとに認知症の方への対応方法をグループで討議する。講師は助言、総括する。</p>
④家族への支援	1 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆認知症の高齢者を支える家族への支援方法を説明する。</p> <p>認知症の受容過程での援助</p> <p>介護負担の軽減（レスパイトケア）</p>
合計	6 時間	
8 障害の理解（3 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆障害の概念、障害者を支える制度や仕組みや法律について説明する。</p> <p>＊障害の概念と I C F</p> <p>I C F の分類と医学的分類</p> <p>I C F の考え方の分類と医学的分類</p> <p>＊障害者福祉の基本理念</p> <p>ノーマライゼーションの概念</p>
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識を概説する。</p> <p>＊身体障害</p> <p>視覚障害</p> <p>聴覚、平衡障害</p> <p>音声、言語、咀嚼障害</p> <p>肢体不自由</p> <p>内部障害</p> <p>＊知的障害</p> <p>知的障害</p> <p>＊精神障害</p> <p>統合失調症・気分（感情障害）、依存症などの精神疾患</p> <p>高次脳機能障害</p>

			<p>広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害</p> <p>＊その他の心身の機能障害</p> <p>【演習】</p> <p>視覚障害者への白杖歩行とガイドヘルプを体験する。</p>
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間		<p>【講義内容】</p> <p>◆家族の心理、かかわり支援について説明する。</p> <p>＊家族への支援</p> <p>障害の理解・障害の受容支援</p> <p>介護負担の軽減</p> <p>【演習】</p> <p>家族を支える仕組みについてグループで討議する。</p> <p>グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p>
合計	3 時間		
9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆初日からここまで学んできた、本来行われるべき I C F の視点・理論と法的根拠に基づいた介護について、改めて確認する。</p> <p>【演習】</p> <p>適切なサービス提供のために必要な視点や理論や根拠にはどのようなものが考えられるか、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆介護に関するこころのしくみの基礎的理解について説明する。</p> <p>学習と記憶の基礎知識</p> <p>感情と意欲の基礎知識</p> <p>自己概念と生きがい</p> <p>老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</p> <p>こころの持ち方が行動に与える影響</p> <p>からだの状態がこころに与える影響</p> <p>【演習】</p> <p>こころの持ち方が行動に与える影響や、からだの状態がこころに与える影響についてグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p>
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆人体の各部の名称、骨や関節の構造、中枢神経や自律神経と内部器官等の基礎的な知識やこころとからだのしくみを概説する。</p> <p>人体の各部の名称と働きに関する基礎知識</p> <p>骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活</p>

			<p>用</p> <p>中枢神経と末梢神経系に関する基礎知識</p> <p>自律神経と内部器官に関する基礎知識</p> <p>こころとからだを一体的に捉える</p> <p>利用者の様子の普段との違いに気づく視点</p> <p>【演習】</p> <p>バイタルサインチェックの測り方を演習する。</p> <p>・体温・脈拍・呼吸・血圧</p>
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆家事サービスの在り方を明確にするとともに、実際の調理、洗濯、掃除等の家事サービスにおける留意点について概説する。</p> <p>生活歴</p> <p>自立支援</p> <p>予防的な対応</p> <p>主体性・能動性を引き出す</p> <p>多様な生活習慣</p> <p>価値観</p> <p>【演習】</p> <p>生活背景の異なる利用者に対し、生活支援を行うポイントをグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p>
	⑤快適な居住環境整備と介護	2 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆快適な生活を送るために必要な居住環境の整備から生活の各場面で活用できる福祉用具（機器）について概説する。</p> <p>◆高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を説明する。</p> <p>家庭内に多い事故</p> <p>バリアフリー</p> <p>住宅改修</p> <p>福祉用具貸与</p> <p>【演習】</p> <p>利用者にとって快適な住環境、住居内で起こりうる事故についてグループで討議。</p> <p>実際に福祉用具を使用し体感してみる。</p>

⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	2 時間	<p>◆身なりを整えるとこの意義や目的、整容のために必要な支援の方法や技術について具体的な事例を交え説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義・効果 <p>【演習】</p> <p>受講者が利用者役と介護者役で二人一組となり、提示した事例について利用者の自立に向けた衣服の着脱方法を考え、その実技を演習する。講師は、都度、助言・指導する。</p>
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆移動・移乗に関する知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について説明する。</p> <p>利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 利用者の自然な動きの活用 残存機能の活用、自立支援 重心・重力の動きの理解 ボディメカニクスの基本原理 移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介 助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） 移動介助（車いす・歩行器・つえ等） 褥瘡予防</p> <p>【演習】</p> <p>車いすや杖を使い、受講者が利用者役と介護者役で二人一組となり、提示した事例について利用者の自立に向けた移動・移乗方法を考え、その実技を演習する。講師は、都度、助言・指導する。</p>
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆食事の意義と目的から、栄養に関する知識、代表的な疾病における栄養や調理、さらに食事介助の方法について解説する。楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法や食事と社会参加の留意点と支援について説明する。</p> <p>食事をする意味 食事のケアに対する介護者の意識 低栄養の弊害 脱水の弊害 食事と姿勢 咀嚼・嚥下のメカニズム</p>

		<p>空腹感 満腹感、 好み 食事の環境整備（時間・場所等） 食事に関した福祉用具の活用と介助方法 口腔ケアの定義 誤嚥性肺炎の予防 と社会参加の留意点と支援</p> <p>【演習】 受講者が利用者役と介護者役で二人一組となり、持参したお弁当を用い、提示した事例について利用者の自立に向けた食事方法を考え実技を演習する。講師は、都度、助言・指導する。</p>
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12 時間	<p>【講義内容】 ◆入浴、清潔保持に関する基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法を現場の実践例も交えて説明する。 羞恥心や遠慮への配慮 体調の確認 全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） 目、鼻腔、耳、爪の清潔方法 陰部洗浄（臥床状態での方法） 足浴、手浴、洗髪</p> <p>【演習】 浴槽やお湯、タオルを用い、受講者が利用者役と介護者役で二人一組となり、提示したい事例について、利用者の自立に向けた入浴・清潔保持の方法を考え実技を演習する。講師は、都度、助言・指導する。</p>
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12 時間	<p>【講義内容】 ◆排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について、爽快な排泄を阻害するところとからだ要因の理解と支援方法について実践例も交えて説明する。 排泄とは 身体面での意味 心理面での意味 社会的な意味 プライド・羞恥心 プライバシーの確保 おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害 排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や</p>

			<p>生きる意欲との関連</p> <p>一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法</p> <p>便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）</p> <p>【演習】</p> <p>ポータブルトイレやおむつを用い、受講者が利用者役と介護者役で二人一組となり、提示したい事例について、利用者の自立に向けた排泄方法を考え、実技を演習する。講師は、都度、助言・指導する。</p>
	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について説明する。</p> <p>安全のための介護の工夫</p> <p>環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）</p> <p>安楽な姿勢・褥瘡予防</p> <p>【演習】</p> <p>受講者が利用者役と介護者役 二人一組となり、提示したい事例について、利用者の自立に向けた睡眠方法を考え実技を演習する。講師は、都度、助言・指導する。</p>
	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、死に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援について概説する。</p> <p>終末期ケアとは</p> <p>高齢者の死に至る過程</p> <p>臨終が近づいた時の兆候と介護</p> <p>介護従事者の基本的態度</p> <p>多職種間の情報共有の必要性</p> <p>【演習】</p> <p>尊厳ある死について、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p>
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	3 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆介護過程の目的・意義・展開について解説し、介護過程とチームアプローチについて、現場の事例なども交えて説明する。</p> <p>【演習】</p> <p>個別援助計画書の作成を行う。</p>

	⑭総合生活支援技術演習	7 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>・事例の提示→こことからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→課題の発見</p> <p>◆2 事例を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技を通して介護手順の習得と技術習得レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う。</p> <p>【演習】</p> <p>事例は、認知症、片麻痺の2 事例。</p> <p>1 事例 3 時間程度のサイクルで実施する。</p>
1 0 振り返り（4 時間）			
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り		2 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆初任者研修の全過程を振り返り、研修を通して学んだこと、継続して学ぶこと、根拠に基づく介護についての要点を再確認する。</p> <p>【演習】</p> <p>介護職として重要な視点・姿勢についての要点をグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p>
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修		2 時間	<p>【講義内容】</p> <p>◆介護サービスに従事してからのあるべき姿について概説する。</p> <p>【演習】</p> <p>次のステップへ高めるため、継続して学習・研鑽する課題についてグループで検討。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p>
合計		4 時間	
全カリキュラム合計時間		130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。